

専修大学社会科学研究所 公開研究会

テーマ：「中国の一带一路構想と南アジアへの影響」

開催日：10月21日（土） 13：00～16：00

場所： 専修大学 神田キャンパス

開催趣意

2013年に中国政府主導のユーラシア大陸を覆う広域経済圏として「一带一路」構想は始動した。当初の計画では、一带一路は中国から陸路で中央アジア諸国とロシアを経て欧州へと至る「陸のシルクロード経済ベルト（一带）」と、海路で中国沿岸部からマラッカ海峡、スエズ運河を経て欧州へと至る「21世紀海上シルクロード（一路）」によって構成されていた。

中国は、一带一路を推進するために、政府系投資ファンドの「シルクロード基金」と、アジアインフラ投資銀行（AIIB）を設立し、アジアにおけるインフラ投資に積極的に乗り出している。

中国の一带一路構想の下で、南アジアにおけるパワーバランスも大きく変わりつつある。一带一路の典型的な事例とされているのはパキスタンとの経済回廊の建設ではあるが、パキスタンとインドの紛争地域に道路を通すことで、インドによる強い反発を受けている。また、中国とネパールの間に、鉄道整備の合意が達しており、長年、インドに依存してきたネパールのこの行動は、インドにとっても決して快いものではない。さらに、最近ではインド軍がインド・中国・ブータンの3カ国国境地帯にある中国領内に進入し、一か月以上、人民解放軍との対峙が続いている。そのきっかけも中国がブータンと中国の国境（中国側では「ドンラン」高地と呼ぶ）での道路建設にあった。

中国の一带一路構想は南アジアにどのような影響を及んでいるのか、中国、インド、ネパールの三つの国それぞれの視点から一带一路構想のチャンスとリスクについて考察したい。

プログラム

開会挨拶

宮寄晃臣 専修大学社会科学研究所所長 (13:00-13:10)

基調講演 (13:30-14:20)

Tirth Raj Khaniya 氏 (vice-chancellor Tribhuvan University)

Structure of the “One Belt One Road” of China and its impact on South Asia

(中国の「一帯一路」構想と南アジアへの影響)

コメント

1. 中国の「一帯一路」構想とインフラ建設 (14:20-14:50)

徐一睿 所員 (専修大学経済学部准教授)

2. インドから見る「一帯一路」構想 (14:50 - 15:20)

ビッシュワラズ カンデル氏 (嘉悦大学経営経済学部准教授)

質疑応答 (フロアーを含め) 15:20 - 15:50

閉会挨拶 原田 博夫 所員 (専修大学経済学部教授) (15:50-16:00)

主催：社研特別研究助成「中国の新常態はどこに向かうのか」

共催：社会科学研究所事務局

※報告・質疑は日本語・英語及び日英通訳付 (逐語 or 要約)

※定員 30 名、参加費無料。

参加希望者は事前に専修大学社会科学研究所にメールあるいは FAX にお名前、連絡先を明記したうえで、10 月 13 日 (金) までにお申し込みください。

専修大学社会科学研究所 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

電子メール shaken@isc.senshu-u.ac.jp

電話 044-911-1089

FAX 044-900-7829

なお、開催場所等、詳細は後日告知します。